

令和2年12月 2日

提 案 書

1 私が、一番先に行いたいことは、最初に入所された方の不安を、少しでも和らげてあげればと思います。これまでは一軒家や近所付き合い及び身近な家族と生活していた方などが、このココルクに入所されると、今までの生活と違うことで戸惑いや不安を感じる方が多くいて、時には孤独感を感じることもあると思います。そこで、これまでと同じ生活が、このココルクでもできればと考えています。具体的な例としては、

- (1) 入居者が以前と同じく散歩や買い物ができるようサポートする。
(外出して気分転換や地域との交流を深める)
- (2) 室内での手芸教室や体操教室など、入所者間の交流が早く行うことができるよう準備を速やかに行う。
- (3) お話好きな方は、社協の傾聴ボランティアなどを活用する。

2 上記と同様に、特にサ高住へ入居された方は、前の家を処分された方は別として、

そのまま残されてきた方などは、家のことも気になると思います。そこで、空き家になった建物の利用として、その空き家にココルクに持参できなく、処分できない物(衣類、陶器、骨董など)を、一時的に保管ないし処分できるまで間、ココルクで一軒家を借りて、預かるシステムをつくってはと思います。

例えば、空き家の維持や管理に費用を要しますが、利用者から低額を負担してもらうなどして管理費等を拠出する。

特に特養などに入所される方などは、認知症を患っている方が多いと思います。多くは昔の思い出話をされることもあるので、その思い出の品物なども保管して、必要があれば一時的に持ち出して、さらに入所者の思い出で作りになればと思います。

形成事業計画にもあるとおり、移住相談の中で、転居後の持ち家の活用に関してこれらも含めて関係団体と連携して対応することで、安心して速やかな移住の促進も図ることができると思います。(形成事業計画、P11、(4)、ア)

一例としては私が支援している方で、既にココルクに入所予定の方が、ココルクの近くに自宅を所有している方がいます。趣旨を説明の上、ご理解して頂ければ、近くでの空き家利用も可能と思われます。

* 何かの参考になればと考え提案しました。よろしく願いいたします。

江別市生涯学習推進協議会副会長 森 田 弘 之